

学林いたどり

Vol. 106
2019.4

Contents

- | | |
|------------------|--------------|
| 02 専攻科修了・卒業式告辞 | 18 クラブ活動等の結果 |
| 04 祝 卒業・修了 | 20 磐陽祭 |
| 14 卒業生・修了生の進路 | 20 TOPICS |
| 15 学生会 | 22 退職者挨拶 |
| 16 全国高専ロボコン・プロコン | 23 新任教職員紹介 |
| 17 全国高専デザコン・フレコン | |



福島工業高等専門学校

National Institute of Technology, Fukushima College

第14回専攻科修了証書授与式・ 第53回卒業証書授与式



第14回専攻科修了証書授与式・ 第53回卒業証書授与式 告辞

福島工業高等専門学校 校長 山 下 治



修了生・卒業生諸君、修了・卒業おめでとうございます。

本日、ここに、多数のご来賓と、修了生・卒業生の保護者の皆様のご臨席をいただき、第14回専攻科修了証書授与式並びに第53回卒業証書授与式を実施出来ますことは、教職員一同の慶びとするところであります。ご多忙の中、御出席いただきました、御来賓の皆様、並びに保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本日、本校を巣立つのは、専攻科の、産業技術システム工学専攻24名、及びビジネスコミュニケーション専攻6名の専攻科修了生計30名、その内、復興人材育成特別コース修了者9名、並びに、本科生として、機械工学科40名、電気工学科35名、物質工学科34名、建設環境工学科41名、コミュニケーション情報学科33名の計183名です。

修了生・卒業生の諸君、諸君が本日ここに晴れて卒業式を迎えることができるのは、これまで、日々、勉学に励み、精進を重ねてきた結果であり、やり遂げたことにまずは自信を持ってほしいと思います。と同時に、本日、諸君が晴れてこの卒業の日を迎えることが

出来るのは、ご家族の愛情と援助、教職員の熱心な指導のお陰であります。諸君を育んでくれたすべての方に、感謝の気持ちを持って頂きたいと思います。

修了生・卒業生の保護者・御家族の皆様には、本日、御卒業のお子様を、このように立派に育て上げられましたことに、敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、これから皆さんができる社会は、「超スマート社会」であります。これまで人間が手掛けてきた仕事がAIやIoT技術にとってかわられることが予想されます。その中で生き抜くためには、正しい選択が必要です。本日この場をお借りして、皆さんに心がけてほしいことを三点申し上げます。

まず一点目ですが、本校の学習教育目標冒頭にもありました「持続可能な社会」を構築するという目標を持ち続けるということです。この目標は、将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズを満足させる節度のある開発が重要であるという概念を含んでいます。この概念は、二十年ほど前に、国連で提唱されました。

最近では、2030年までに達成すべき十七の目標、これらはSDGs（サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ）と言われています。具体的には、貧困や飢餓の撲滅、健康や福祉、生涯学習の促進、気候変動への対策、再生可能エネルギーの導入などの具体的な目標が掲げられています。

これらの十七の目標は、一国だけではなくて、人類全体が、豊かに、かつ幸せに暮らしていくための方針となっています。今後、日本国内のみならず世界中の人々の共有の価値として位置づけられるこの概念を、



よく理解をして、迷ったらこの方針を思い出す。そのような姿勢を保ち続ければ、皆さんも正しい道を進んでいけるものと思いますので、ぜひ心がけてください。

二点目は、問題解決の手法であります。私が大学生の時、出会った「道は開ける」というアメリカの作家のデール・カーネギーの本から紹介をします。要約すると、問題解決のためには、①事実の把握、②事実の分析、③決断そして実行、の三段階が必要である。そして、事実の把握のためには、第三者の立場で、冷静・公平な観察をする。事実の分析にあたっては、悩んでいる事実（論点）や自分ができること（選択肢）をすべて書く。③決断にあたっては、正しい判断（選択）をする。という記載があります。正しい判断をどうするかは、これから磨いていく必要がありますが、皆さんにはこれまで高専で培った知識、経験、相談できる仲間、そして人類共通の価値SDGs があります。これを通じて正しい道を選択してください。

「言うは易く行うは難し」、なかなか実践するのは困難です。通常は、前例や周りの人のアドバイスに従うのも道ですが、本格的な悩みに当たったときは、じっくり三段階を踏んで考えてみてください。「道は必ず開けます」。

三点目です。皆さんのルーツである故郷（ふるさと）福島を忘れないでください。グローバルな人材になるためには、世界的価値観を持つことはもちろんですが、自らのルーツを大事にできない人は信頼されません。いいかえれば、自分の故郷や日本を説明できることがグローバルに活躍する礎であることを心がけてください。東日本大震災から、八年が経過しました。しかしながら、福島の復興はまだその途上にあります。福島から離れる諸君も多いと思いますが、いつか地域の復興・発展に貢献していくという気持ちも持ち続けて頂

きたいと思います。

最後に、高専の教育は裏切りません。自らに自信を持って、自らの夢を実現してほしいと思います。諸君のこれから的人生が、幸多いものであることを祈念して告辞と致します。





漂えど沈まず

機械工学科5年担任 松本 匡以
卒業おめでとう。

毎年、卒業式が近づくと色紙等に言葉を書くことが多くなるが、私は水泳部の顧問もしているので、この言葉を使うようにしている。競泳では、スタートして途中で立つ（沈む）と失格になるが、その種目の泳ぎ方で泳いでいれば、漂うような速さでも時間はカウントされ、ゴールすれば正式記録となる。

「漂えど沈まず」という言葉は、人生を考える上でも意味深いものだと思う。君達のこれから的人生を航海に喩えれば、嵐等の危険な状況に遭遇するのは必至であろう。また、命綱であった「過去問」は存在しないのが普通である。そんな中、漂っていても沈まなければ、必ず良いことが巡ってくるものである（たぶん…）。

今、希望に満ちて卒業して行く君達には、「一心不乱」等といった言葉の方がふさわしいのかもしれないが、無常な時代だから、敢えて、この言葉を贈りたい。

Bon Voyage!

感謝

機械工学科5年 山廻邊 和史

小雨降る入学式から5年が経ち、はやくも卒業を迎えることに驚くとともに、そう感じるほどに充実していた日々を思い返しています。幼いころから機械工学に興味があり、ロボットに関する勉強がしたいと機械工学科に入学しました。

福島高専では、授業で習う勉強だけではなく、社会的なルールや人との付き合い方などいろいろなことを身につけることができました。課外活動としても、部活動での高専ロボコン全国大会出場や、米サンフランシスコへの海外研修など、多くの貴重な経験をしました。

難しい科目や大量の課題など大変なことも多くありました。多くの方に助けられ、なんとか卒業を迎えることができました。これらもひとえに、支えてくれた方々のご指導・ご支援があったからこそだと考えます。

高専生活で抱いた、先生方や友人、家族への感謝の気持ちを忘れずに、少しでも恩返しが出来るよう、これからも精進します。

5年間、本当にありがとうございました。



気張らずに生きてくればそれでいい

奈良 亮式 電気工学科5年担任 濱崎 真一
私は「バカ」が好きだ。何かに集中して何も見えなくなるバカ、人の思いに気付かないバカ、勘違いしているバカ、そして本当にバカ、そんなバカたちが大好きだ。だから私は自分の組が大好きだった。去り行く君らの後姿を寂しく眺めている。これから君たちには様々な苦難が待ち受けているかもしれない。そんな時に助けを求められる仲間を作り、大事にしていって欲しい。もしそんな仲間がなく困った場合は、視点を変えて客観的に物事を考えてみてくれ。視野の狭い生き方はしないように心がけるべし。ならば生き方は、気楽に構えて多少不良気味なほうがいい。見栄を張って、背伸びをする生き方は苦しいのだから。好き好んでそんな生き方を選ぶなら止めやしないけど、ただ「自分に嘘をつく」だけはやめて欲しい。自分が今、何をしたいのかを真摯に考え、出した答えならば、素直に許容してやればいい。そんな正直な生き方をして「バカ」と言われたならば、それは誇れる「バカ」なんだと私は思う。「バカ」を誇れ、それが君たちの魂だ。

出会いに感謝

田内 由紀 電気工学科5年 蛭田 貴之
福島高専に入学し、あっという間に卒業が目の前に迫ってきました。この5年間で様々な経験をしてきました。テスト期間は勉強と電気実験のレポートをこなして何度も空が明るくなるまで起きていたかもしれません。そして高専生は県立の高校生と違うと言われていましたが、体育祭や文化祭に全力になるクラスや部活動に入り、クリスマスやバレンタインに一喜一憂する友達に出会えました。その中で委員長や部長を務めることは大変でしたが、友達に支えられながら楽しく過ごすことができました。委員長を務めるきっかけは入学したときの席が飯田先生の目の前だからという理由から始まった委員長生活でしたが、今になって思い出すとそれもとても良い経験をしたと思います。わがままで言うことを聞かないクラスでしたが、飯田先生、濱崎先生にとても良い迷惑や心配をお掛けしましたが先生方には本当に感謝の気持ちしかありません。

これから先はそれぞれの道を歩んでいきますが福島高専で得た知識と友達を大切にして残りの人生を楽しみたいと思います。



幸せな人生を

物質工学科5年担任 内田 修司

卒業、おめでとう。これは卒業するあなたに贈ります。

ご卒業、おめでとうございます。これはご家族など、高専で学ぶあなたを支え励まして下さった方々に贈り、私も一緒に喜びたいと思っています。入学して卒業するのは普通のことと思われますが、決して自動的なものではなく、この5年間が希望と現実のギャップに悩み、不条理、理不尽な事案との遭遇などあっても学ぼうと取り組み、各自努力した結果であることを私達は知っています。研修室配属や卒研、進路の選択など、あなたたちはとても素直で正直な人たちなのだと気付かされました。(誤解の原因: フラットな世界世代とヒエラルキー世代のギャップだったかもしれません。)

これまでの学習、経験、努力などを学びとして、新しい環境に進むあなたの可能性を高めるのに少しでも役に立って、より幸せな人生であるよう祈っています。時々は心と体をメンテして、それぞれの選んだ道で活躍されることを期待しております。

昇 華

物質工学科5年 佐藤 梨奈

時間の流れは自分が思っているよりも早く、入学前には長いと感じていた高専での5年があっという間に過ぎ、卒業が目前となった。一般の高等学校と比べて大きな違いのある高専は5年という期間を含めてイレギュラーな部分が多く、その分学生生活についての思い出をここには書ききれないほど残すことができた。

右も左もわからず入学してきたが、当時専門分野などについてもほとんど何も知らなかった頃と比べて、知識量が増えたことはもとより、自身の価値観の構築や困難な状況に直面した際の適応力も磨けてきたのだと、卒業研究などを通して実感する。そのような点では、高専生として卒業できるのに値する学生として成長できたつもりだ。

この先クラスメイトの各々が異なる進路を歩んで行くが、これまでの20年の人生の中で短くない時間をこの場所で過ごした。5年間の間面倒を見て頂いた先生方、福島高専という学びの園へ感謝の気持ちを忘れずにいたい。



卒業生のみなさんへ

建設環境工学科5年担任 金澤 伸一
みなさん、ご卒業おめでとうございます。

福島高専での5年間はいかがでしたか。これからみなさんには、新たな道（進学・就職）へ進みますが、何をするにしても人との繋がりを大切にしてください。そして失敗を恐れず、何事にも前向きにチャレンジしていってください。こういった精神はどのような世界でも大切だと思います。また、様々なチャンスを掴むためには、そのチャンスを掴む努力と実力も必要だと思います。これまで福島高専で学んだ経験を、ぜひ次のステージで活かしてください。

みなさんは、いずれ建設の各分野で活躍する人材になることと思います。仕事や技術的なことで困ったり悩んだりした際には学校に寄ってください。福島高専には各分野の専門家がいるので相談してください。学校や研究室は卒業して役に立つ存在であると思います。それが高等教育機関の教育、研究で研鑽を積んだみなさんの強みです。将来のフロントランナーとして活躍することを祈っています。

5年間の感謝

建設環境工学科5年 山形 夏輝

冬の厳しい寒さも和らぎ、徐々に春の訪れを感じられるようになる日が増えて参りました。桜のつぼみと共に、私たちの新生活に対する期待も膨らんでおります。

私たち5年生は、昨年度の三月を持ちまして無事に福島工業高等専門学校、建設環境工学科を卒業することができました。5年間という長いようで短い時間を楽しく、有意義に過ごすことができたのも、親身になって私たちのことを考え、指導して下さる先生方、そして苦楽を共に過ごした多くの友人たちとの出会いのおかげであると感じております。また、一つのことを追求して成し遂げる難しさや楽しさ、達成感をインターンシップや卒業研究などを通じて身に染みて学ぶことができました。それぞれの道はここで分かれますが、この学び舎で学んだこと、そして共に道を歩んだ仲間たちとの思い出を胸に、新たな場所でも頑張っていきます。

5年間、本当にありがとうございました。

コミュニケーション情報学科

Department of Communication and Information Science



高専時代の重み

コミュニケーション情報学科5年担任 若林 晃央

月日の流れは早いもので、3年間の担任も終わろうとしています。年を取ると時間の流れを早く感じるようになるのですが、その理由を考えると、人生の分母が大きくなるからだと思います。

だとすると、分母の小さい若い皆さんにとってのこの3年間は、私の倍くらいの重みを感じているのかもしれません。とはいえ、若ければ若いほど同じ1年の重みが増えるのかというと、現実にはそうならないでしょう。さもなくば、0歳児の記憶が最も重みのある記憶となるはずですが、そうはなっていないと思うからです。その理由を考えると、若過ぎると行動の範囲が限られるため、印象に残る行動をしていないからだと思います。

高専の5年間は、このように若さと行動範囲も広さの2つの意味で、恐らく皆さんの人生で最も記憶に残る5年間になることだと思います。この5年間をどのように過ごしたかは様々かと思いますが、それぞれの思いを胸に新たな道へと進んでください。

クラスのみんなへ

コミュニケーション情報学科5年 谷 拓海

高専5年間は、今思うとあっという間に過ぎた濃い5年間でした。入学当初はみんなで頑張って卒業しようと決心しましたが、今では多くの仲間が減り現在32名になってしまいました。ですが残った人達では、試験で協力しみんなで試験に臨んでいました。また、本クラスでは2年生次より再試の人数が多いクラスで、より試験時に一致団結ができたクラスでした。確かに、体育祭や学年学科行事ではバラバラな時もありましたが、時には団結しあえる嬉しさがありました。卒業をすると進学・就職とましてや上京する者もおり離れ離れになってしまいます。時にはつらいときもあると思いますが、その時は高専の試験期間に培ったメンタルを思い出してください。またいつか会った時は笑い合いましょう。

生産・情報システム工学コース



ス フ リンジンモウ 师傅領进门、修行靠个人

ス 一 ロ 働 工 ム テ 生産・情報システム工学コース
文 貢 離 山 コース長 鄭 耀 陽

みなさん、専攻科修了おめでとうございます。本科を含む7年間は高専で過ごしました、よい思い出はたくさんできたでしょうか。15歳から22歳の7年間は心身ともに一番成長な時期でみなさんも立派な大人になり、これからは進学か就職で次の人生ステップに踏み込もうとしています。

ここで、みなさんに中国のことわざ“师傅領进门、修行靠个人。”を送りたいです。

“师傅”は昔技術や芸を伝授する師匠、先生、親方の意味です、今も技芸をもつ人に対して広く用いる尊称です。“修行”はもともと佛教、道教で修行することを指しますが、ここでは知識の積み重ねること、身に付けることを指します。

すなわち、「入門知識と正しい勉強方法を先生に教わっているが、これからは自分の努力でやります。」という意味です。

簡潔にいうと、“師匠は入門までを、修行は個人次第。”です。

各自は“修行”を積み重ね、夢に近づこう。

これからみなさんのご活躍を期待しております。

7年間の学生生活を振り返って

ス 一 ロ 働 工 ム テ 生産・情報システム工学コース
卒 楊 瑞 婧 2年 矢 内 智 大

福島高専に入学してから7年がたちます。高専一年生の4月、私は部活を頑張ろうと意気込んで入学しました。そのため、機械工学という分野についてそれほど興味はありませんでした。しかし、先生方の熱心なご指導により学年が上がるにつれて次第に機械工学の奥深さや面白さに気づくことができました。また、専攻科でさらに2年勉強することができたので、自分のやりたいことをより明確にすすめることができました。

この福島高専での7年間は先生方や部活の顧問、高専の職員さん、友達、先輩、後輩、地域の方々など多くの人に支えられてきました。特に高専でできた友達や先輩、後輩たちにはたくさん助けられました。福島高専で出会うことができた多くの人に感謝するとともにこれからもこの関係を大切にしていきたいと思います。

最後に、部活や勉強を自由にやらせてくれた両親に心から感謝します。本当にありがとうございます。

エネルギー・システム工学コース



専攻科修了のみなさんへ

エネルギー・システム工学コース
コース長 伊藤 淳

寒さが厳しかった冬が過ぎ、日増しに春の暖かさを感じられるようになり、平成最後の専攻科修了生を送り出す季節を迎えました。

本科の5年と、専攻科の2年、合わせて7年は、すごく長かったと思う反面、振り返ると、あっという間に感じられるのではないかと思う。本校で過ごした7年間の学生生活を振り返ると、どんなことが思い浮かぶのでしょうか。仲のよい友とともに楽しく過ごしたこと、特別研究や試験で苦しかったこと、インターンシップで体験したこと、学会発表で緊張したことなど、さまざまな出来事が想いだされるのではないかと思う。これら体験したことすべてが、皆さんを大きく成長させたものだと思います。

さて、本校を巣立って行くみなさんは、4月から環境が変わり、希望と不安とが入り混じった新しい生活を始めることになります。ますます、自立や自主性が求められ、責任ある行動が必要となります。また、周囲の人との新たな人間関係も築いてゆくことになります。多くの困難も待ち受けているかもしれません、くじけず粘り強く困難を克服してほしいと思います。日々、技術は進歩し、より快適な社会が築かれています。素晴らしい未来を切り拓く担い手として、大いに活躍することを願っています。

高専生活で得たもの

エネルギー・システム工学コース
2年 山崎 貴文

専攻科入学時、2年後の自分はどんな気持ちで卒業を迎えるのだろうと思っていました。そしていま卒業を迎え、専攻科に進んでよかったと心から思っています。それは自分の目標が達成されたからだけではありません。私は周りの環境に恵まれていたと思っています。高専での講義や研究を通して学べたことも多くありましたが、私は今の友人たちと共に学生生活を送れたことが、一番大きかったと思います。そして、この7年間頑張ったのは、本科から一緒にいた友人たち、専攻科の友人たち、その一人一人のおかげであると思っています。これから先、皆さんと共に学ぶことができず、物寂しい気持ちではありますが、再会できる日を心待ちに頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、これまで支え続けてくれた両親には、感謝の気持ちでいっぱいです。また、熱心なご指導や対応をしていただいた先生方、職員の方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

化学・バイオ工学コース



まい 勇往邁進の心

第一回卒業式で講話 化学・バイオ工学コース
番 川 梅澤 洋史

専攻科修了おめでとうございます。高専生活の7年間は皆さんにとって有意義なものとなったでしょうか。おそらく、長いようであっという間に過ぎた7年間ではなかったかと思います。皆さんのが本科在籍時、授業では物足りなさを感じることが多かったのが、専攻科2年生での授業では、質問に的確に返答できる成長した姿が強く印象に残っております。

4月から皆さんは新しい環境での生活が始まります。これから多くの困難が待ち構えているかと存思います。でも心配することはありません。若いうちの失敗は許されますし、今後の人生の大切な糧になります。失敗を恐れずに勇往邁進の心をもって色々なことにチャレンジしてみて下さい。はじめが大切です。新しい環境への適応は大変ですが頑張ってください。また、何か相談事があれば遠慮せずに来校してください。

皆さんのこれからのご活躍を期待しております。

私の高専生活

第一回卒業式で講話 化学・バイオ工学コース
番 川 梅澤 2年 松井 茗

福島高専に入学してから7年が経とうとしています。入学当初は環境の変化に戸惑いましたが、周りの方々のサポートのおかげで恵まれた環境で多くのことを学ぶことができたと実感しています。

学業面では、クラスメイトとともに辛かったテスト勉強やレポートを乗り越えることができました。また、部活動では、学年、学校を超えてたくさんの方々に支えられながら活動し、協調性や忍耐力などを身に付けることができました。夢中になって打ち込んだ日々は大きな財産となったと心から感じています。

専攻科の2年間は、そのほとんどが研究室での思い出です。学会で12回も発表をするという貴重な経験をさせて頂きました。人前で発表することが苦手だった私も、このような経験を積み少しづつ成長できたのは、恩師である尾形慎先生と研究室の先輩方、同級生や後輩のおかげです。

高専生活で大切な人たちと出会えたことは一生の宝物です。今までご指導、ご支援してくださった諸先生方、支え合い励まし合ってきた友人たち、そして何より一番近くで支えてくれた家族に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

社会環境システム工学コース



チャンスの女神の話

社会環境システム工学コース
コース長 縁川 猛彦

皆さん、専攻科修了おめでとうございます。皆さんとは1年ほどの短い関わりでしたが、7名揃って修了できることはとても喜ばしいことだと思っています。

ここではチャンスの女神の話をしたいと思います。チャンスの女神は前髪が長く、後ろ半分が禿(は)げていて髪の毛がありません。チャンスの女神とすれ違った時に「これはチャンスだ」と思ったら、すかさず前髪を捕まえることが重要です。後から追いかけて捕まえようと思っても、後ろ髪がありませんので二度と捕まえることができないのです。

またチャンスの女神は、挨拶する人や朝早く会社に出勤する人が大好きのようです。ですから、手っ取り早くチャンスの女神に出会おうと思ったら、他人より頻繁に気持ちを込めて挨拶したり、他人より早く出勤することが有効です。

皆さんは子供の頃から、「努力する人は報われる」と教えられてきましたが、そんなに甘くはありません。誰もが努力している世の中ですので、ただ努力してもダメなのです。今後チャンスの神様を捕まえることができるよう、他人とは違う努力を重ねてください。

謝恩

社会環境システム工学コース
2年 市川 希

冬の寒さも和らぎ、春の訪れを少しづつ感じる中、卒業式が近づくごとに7年間通い続けた学校生活を思い返すと寂しさを感じます。高専は本科では5年間、専攻科まで進学すれば7年間学ぶことになります。そのため普通科の高校に比べて長く感じますが、学校生活の一日一日に多くの出来事があり、学習面でも人間面でも本当に多くのことを経験することができました。特に自身を大きく成長させたきっかけとなったのは、本科4年生から始まった研究活動です。研究では、自分がこれまで学んだことを基に、社会に貢献できる成果を導き出します。その過程では、学内の先生だけでなく企業や研究者、学会などで知り合った大学の多くの人たちと接する機会があり、学問や社会に関する様々なことを教えていただきました。報告書の作成や学会の準備など時には大変な状況もありましたが、愉快な友人たちと支え合うことで楽しい学校生活を送ることができました。

最後になりますが、これまでお世話になった先生方、研究に関して的確なアドバイスをくださった研究者の方々、ともに学んできた友人、明るい後輩たち、そしてここまで育て、毎日の生活を支えてくれた家族には心から感謝しています。来年からは社会の一員として貢献できるよう、高専で学んだことを生かし頑張ります。ありがとうございました。

ビジネスコミュニケーション学コース



新しい時代に向かうみなさんに

ビジネスコミュニケーション学コース
コース長・専攻長 湯川 崇

専攻科ご修了おめでとうございます。
このたび晴れて修了を迎えたみなさんは、平成の最後の7年間を福島高専の本科と専攻科で過ごしたことになります。これまでの7年間の学校生活での各種行事や課外活動を通して経験したさまざまなこと、出会った人達とのやりとりなどが懐かしく思い出されているのではないでしょうか。

福島高専の教員はみな面倒見がよく、困ったことがあっても親身に相談にのってくれたのではないかと思います。みなさんがこれから生活していく社会では、辛いことに直面してもまわりに頼る人がいないかもしれません。どんなときにも高専で身につけた知識や経験を武器に、困難に負けずにそれぞれの持ち味を十分に発揮して乗り越えて行くものと確信しています。

4月からは社会人としての新しい生活が始まります。卒業後の進路は異なりますが、これからも自分の目指す方向に向かって努力を続けて、新しい時代を創っていくことを期待します。

学生生活を振り返って

ビジネスコミュニケーション学コース
2年 江上 歩李

専攻科での2年間は、本科5年間に比べてより密度の濃い時間となりました。本科時代には学べなかった経営学や情報科学などの応用的な学習ができたことはもちろん、他学科の学生と協力して1つの物事に取り組むといった経験は、専攻科だからこそ得られたものだと思います。個人的に印象深いのは、専攻科1年次でのフランス短期留学で初めて異国の文化に触れたり、2年間の特別研究を通じて1つのテーマについて深く思考する時間をもてたことです。これらの経験は決して楽しいものばかりではありませんでしたが、一緒に学び合える仲間の存在もあり、辛い時期も乗り越えることができました。

学年が上がる度に、これまで自分の選んだ道が本当に正しかったのかを問う機会が多くありました。しかし、高専での7年間は私にとって間違いなく必要な時間だったと思います。最後に、7年間ご指導くださった先生方、辛い時に支えてくれた家族に改めて感謝申し上げます。

平成30年度 卒業生・修了生の進路状況と キャリア教育支援室の取り組み

男女共同参画・キャリア教育支援室 キャリア教育担当責任者 松尾 忠利

平成30年度の本科5年生および専攻科2年生の進路決定状況を下表に示します。本科5年生の進路状況は、進学と就職がほぼ半々で例年と同じ傾向でした。売り手市場を反映して、就職希望者に対する求人倍率は今年度も約27倍と好調でしたが、大企業の就職に関しては狭き門となっています。また、進学先では本校専攻科に進学する学生数が昨年度の50%増でした。専攻科2年生の大学院進学率も例年よりも高くなりました。年度末までには、卒業生・修了生のほぼ全員の進路が決定する見込みです。

キャリア教育支援室として、学内での公務員模擬試験、就職ガイダンス、面接等指導講習会の実施、学外での仕事研究セミナーへの引率等の学生への支援を行いました。従前は本科4年生と専攻科1年生を対象としていた高専協力会企業との懇談会を、今年度は全学生を対象に「高専キャリアフォーラム」として11月に開催し、多くの学生が参加してくれました。また、キャリア教育担当責任者として、多

くの大学や企業の担当者と面談する機会があり、その度に「興味のある学生がいる場合は、ぜひ、ご推薦をお願いします。」と言われ、社会からの高専生の評価の高さを改めて認識しました。これは、基礎的、専門的な学力が高いことに加えて、何事にも眞面目に取り組む素直な性格、協調性やコミュニケーション能力の高さ等、仕事を遂行する上での資質の高さが評価されているのだと思います。一方で、就職活動を行っている学生と、福島高専の学生の採用に積極的な地元企業の間には明確なギャップを感じられることもありましたので、今後も地（知）の拠点大学による地方創生推進事業の活動と連携を取りながら地元企業の要望にも応える活動を継続したいと思います。

卒業生の活躍によって築かれた高い評価に起因する現在の良好な進路状況に甘んじることなく、来年度もキャリア教育支援室として学生の活動がスムーズに進むように支援を継続します。

本科生の進路(平成31年3月卒業)

()は女子学生

区分	機械工学科	電気工学科	物質工学科	建設環境工学科	コミ情学科	計
卒業者数	40(4)	35(2)	34(13)	41(11)	33(26)	183(56)
進学者数	16(3)	14	18(6)	30(4)	11(8)	89(21)
就職者数	21(1)	20(2)	16(7)	10(6)	20(16)	87(32)
その他	3	1	0	1(1)	2(2)	7(3)

専攻科生の進路(平成31年3月修了)

()は女子学生

区分	産業技術システム工学専攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
卒業者数	24(6)	6(6)	30(12)
進学者数	11(3)	0	11(3)
就職者数	13(3)	6(6)	19(9)
その他	0	0	0



平成30年度の学生会活動を振り返って

学生会長 コミュニケーション情報学科 4年 福田 くるみ

今年度は、学生会執行委員会に「広報・渉外」の役職を追加し、外部組織との関わりにも意識をおいた活動に試みました。広報活動として、学内新聞の発行、及び学外でのボランティア活動を実施しました。渉外としての活動については、1年間で仕事内容を確立することができなかったため、来年度以降に期待したいです。

また、例年行っている七夕企画のグレードアップにも挑戦しました。学生がねがいごとを書いた短冊の中から優秀作品の選出、抽選当選者のねがいごとを実際に叶える、といった要素を追加したことで、学生がより楽しんで企画に参加してくれたように思います。

最後になりますが、今年度1年間の活動を振り返って思うことは、連携をとることの重要さです。私たち執行委員会があるだけでは、物事はなにも成立しません。学生や先生方がいてこそ成り立つものです。今年度活動を共にしてくれた方々に感謝を述べるとともに、来年度の執行委員会及び福島高専の学生にエールを送ります。

平成31年度学生会執行部役員選挙結果

役職	学年 学科	氏名
学生会長	機械工学科 3年	松本 安基良
書記	ビジネスコミュニケーション学科3年	草野 真輝
書記	ビジネスコミュニケーション学科1年	岩崎 由芽花
会計	機械システム工学科 2年	円谷 優介
会計	都市システム工学科 2年	高橋 昂大
広報・渉外	ビジネスコミュニケーション学科2年	伊藤 千紗
監査	都市システム工学科 2年	土屋 裕
監査	機械システム工学科 1年	石井 拓翔
監査	機械システム工学科 1年	小出 光
監査	機械システム工学科 1年	鎌田 葉
運動部部長	機械工学科 3年	脇田 優希
運動部副部長	物質工学科 3年	菌部 一貴
文化部部長	電気工学科 3年	松本 茉桜
文化部副部長	物質工学科 3年	高橋 龍祐
研究部部長	機械工学科 3年	鈴木 海渡
研究部副部長	電気電子システム工学科2年	富樫 優太
体育祭実行委員長	機械工学科 3年	脇田 優希

全国高専ロボットコンテスト

学生代表 五十嵐 知士

平成30年11月25日、両国国技館にて第31回全国高専ロボコンが開催されました。今回は、さまざまな高さのテーブルに向けてロボットがペットボトルを投げ、ペットボトルが立った本数を競うという競技でした。

本校Aチームは、テーブルに向かって滑らかに移動する自動ロボットと、回転するアームが特徴的な手動ロボットの2台で大会に出場しました。東北地区大会では準優勝し、アームを回転させてペットボトルを投げるというアイデアが評価され、推薦で全国大会に出場しました。全国大会では、一回戦で旭川高専と対戦し、23対8の得点差で敗れましたが、自動ロボットの制御技術が評価され、特別賞をいただくことができました。

このようにロボットコンテストに出場できましたことは、日頃から多大なる応援とご支援をいただいたご父兄や教職員の皆様、そして地域の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。



全国高専プログラミングコンテスト

プログラミングコンテスト指導教員 小泉 康一

平成30年10月27日（土）、28日（日）の両日、徳島市アスティとくしまにて第29回全国高専プログラミングコンテストが開催されました。本校はなんと課題部門、自由部門、競技部門の3部門すべての予選を通過し、本選に出場できました。本選において、課題部門では旅行支援アプリを、自由部門ではオリジナルのごみ分別支援アプリを作成し展示しました。この2つの部門は、ソフトウェアの完成度はもとより、プレゼンテーションによる作成したソフトウェアのポイントなどの説明の上手さも競って上位を目指します。結果は、課題部門：敢闘賞、自由部門：敢闘賞でした。競技部門の内容は、他高専と対戦形式での陣地とりパズルゲーム対抗戦でした。

対戦結果は、予選リーグ3位（1位のみ準決勝進出）で、敗者復活戦においても勝利できず、1回戦敗退となりました。応援してくださった皆様には御礼を申し上げます。



全国高専デザインコンペティション参加報告

デザインコンペティション指導教員 齊藤 充弘・緑川 猛彦

平成30年11月10日（土）～11日（日）の2日間、釧路市において第15回全国高等専門学校デザインコンペティションが開催されました。今年の構造デザイン部門は、「より美しく、より強く」をテーマに、45kgの集中荷重と5kgの移動荷重に耐える銅製の橋を作成するものでした。本校からは「継橋開来」（1、3、4年生チーム）と「Mr.&Mrs.Mountain」（2年生チーム）の2チームが出場しましたが、それぞれ35位と48位（57チーム中）と大健闘しました。



来年は東京高専が主幹で橋の素材も銅から紙に変更になることから、また新たな気持ちで頑張ってもらいたいと思います。

空間デザイン部門では「発酵する空間、熟成する空間」というテーマについて、建設環境工学科の5年生と専攻科生による2つのチームが作品を考案・製作して応募しましたが、残念ながら予選を通過することができませんでした。

全国高専英語プレゼンテーションコンテスト

英語プレゼンテーションコンテスト指導教員 加藤 明子・渡邊エリカ・石原 万里・小倉 恵実

2019年1月26日から27日にかけて、神戸市西区民センターにて第12回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストが行われ、本校からは、ビジネスコミュニケーション学科3年藤田来夏（ふじたらな）さんが、シングル部門の部で出場しました。藤田さんは、昨年度も全国大会に出場しており、今回は2回目の参加となります。11月に行われた、東北予選大会を2位で通過し、全国大会に向けて練習を重ねてきました。発表当日は、日本の貧困問題に焦点を当てた「KODOMOSYOKUDOU（子ども食堂）」について、5分間のプレゼンテーションを行いました。練習の成果を発揮し、堂々としたパフォーマンスを披露し、また、質疑応答でもユーモアあふれる答えを返して、会場から拍手を送られました。入賞は逃しましたが、交流会で他校の参加者と有意義な時間を過ごしました。東北大会から、半年以上にわたり指導に携わった先生方、ありがとうございました。





体育部

◎平成30年度福島県高等学校新人体育大会 県大会

■陸上競技（男子）

400m H	佐藤 優斗(2C)	第1位 (東北大会出場)
3000mSC	目黒 光樹(2T)	第3位 (東北大会出場)

三段跳

アチャラアファムエリック(1M) 第8位

■陸上競技（女子）

棒高跳	熊本 咲英(2B)	第1位 (東北大会出場)
棒高跳	上野 美咲(2B)	第2位 (東北大会出場)
三段跳	畠山 茉絃(2B)	第5位
7種競技	安齊 初佳(1C)	第6位

■バレーボール（男子）

3回戦敗退

■ソフトテニス（男子）

団体戦		2回戦敗退
-----	--	-------

■ソフトテニス（女子）

団体戦		1回戦敗退
個人戦	大和田夏美(2T)	3回戦敗退
〃	猪狩 澄玲(2T)	1回戦敗退
〃	千葉 彩華(2T)	1回戦敗退
〃	山野辺愛佳(2B)	1回戦敗退

■テニス（男子）

団体戦		1回戦敗退
シングルス	石橋 凜(2C)	1回戦敗退

■卓球（男子）

団体戦		3回戦敗退
ダブルス	桑机 友翔(2T)	3回戦敗退
〃	大沼 源(1E)	3回戦敗退
シングルス	緑川 詩音(1C)	3回戦敗退
〃	大石 竜平(1C)	ベスト16
〃	赤津 陽斗(3E)	3回戦敗退
〃	桑机 友翔(2T)	3回戦敗退
〃	緑川 詩音(1C)	3回戦敗退
〃	大石 竜平(1C)	2回戦敗退

■水泳競技（男子）

50m自由形	高橋 昂大(1T)	予選敗退
〃	鈴木 拓将(2M)	予選敗退
100m自由形	高橋 昂大(1T)	予選敗退
〃	鈴木 拓将(2M)	予選敗退
〃	土屋 裕(2T)	予選敗退
200m自由形	矢吹 将也(2C)	予選敗退
〃	土屋 裕(2T)	予選敗退
400m自由形	矢吹 将也(2C)	予選敗退
100m平泳ぎ	小針 聰真(1C)	予選敗退
200m平泳ぎ	福原 匠流(1M)	予選敗退
200m個人メドレー	福原 匠流(1M)	予選敗退
4×100mリレー	(小針, 福原, 土屋, 矢吹)	予選敗退
4×100mメドレーリレー	(矢吹, 福原, 小針, 土屋)	予選敗退

■水泳競技（女子）

100m自由形	渡邊 まこ(1B)	予選敗退
100m平泳ぎ	猪俣 里奈(2T)	予選敗退
200m平泳ぎ	猪俣 里奈(2T)	予選敗退
100mバタフライ	渡邊 まこ(1B)	第9位

■弓道（男子）

個人戦	川澄 将弘(2M)	準決勝進出
原田 強志(2E)		準決勝進出

■弓道（女子）

個人戦	清水 紗子(2B)	予選敗退
阿部美沙希(1B)		予選敗退

■空手道（男子）

男子個人形	石井 啄翔(2C)	1回戦敗退
男子個人組手68kg超級	石井 翔馬(1C)	1回戦敗退

■剣道（男子）

個人戦	矢吹 風真(2E)	1回戦敗退
-----	-----------	-------

■剣道（女子）

団体戦		ベスト8
個人戦	渡辺 愛弓(1B)	1回戦敗退

■バドミントン（男子）

団体戦		2回戦敗退
ダブルス	三本菅由泰(1M)	1回戦敗退

〃	若松 恒佑(1M)	1回戦敗退
シングルス	薄葉 健大(2M)	2回戦敗退

■バドミントン（女子）

団体戦		2回戦敗退
ダブルス	草野 優夏(2B)	3回戦敗退

〃	赤塚 優花(2B)	1回戦敗退
シングルス	根本 真央(2C)	1回戦敗退

〃	齊藤 優香(2C)	1回戦敗退
女子ダブルス	草野 優夏(2B)	1回戦敗退

〃	赤塚 優花(2B)	1回戦敗退
女子シングルス	根本 真央(2C)	1回戦敗退

〃	齊藤 優香(2C)	1回戦敗退
---	-----------	-------

◎全日本卓球選手権福島県予選

ジュニアシングル	小西 真優(1B)	ベスト16
混合ダブルス	谷本 純一(4E)	ベスト16
女子ダブルス	岡部あゆみ(4I)	ベスト16
男子ダブルス	高橋 百花(5I)	ベスト16
男子シングルス	岡部あゆみ(4I)	ベスト16

◎第54回東北地区高等専門学校体育大会ラグビー競技

1回戦敗退

◎第23回東北高等学校新人陸上競技選手権大会

400mH	佐藤 優斗(2C)	第7位
-------	-----------	-----

◎第45回福島県ダブルステニス選手権大会（ジュニアの部）

男子ダブルス	中嶋 晃祐(2M)	1回戦敗退
石橋 凜(2C)		1回戦敗退
〃	高橋 知輝(2T)	1回戦敗退
石田 壮太(2C)		1回戦敗退
〃	加藤 悠利(2M)	1回戦敗退
鈴木 啓仁(2T)		1回戦敗退

◎第47回福島県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会

女子ダブルス	大和田夏美(2T)	ベスト16
猪狩 澄玲(2T)		ベスト16

◎第7回秋季東北地区高専硬式野球交流戦

3位

福島	27-6	一関
仙台名取	7-6	福島
福島	21-7	仙台広瀬

■ストリートダンス部

DANCE ALIVE HERO'S RIZE TOHOKU vol. 1		予選敗退
DANCE ALIVE HERO'S RIZE TOHOKU vol. 2		ベスト8
第11回日本高校ダンス部選手権バトルトーナメント		ベスト8
DANCE ALIVE HERO'S TOHOKU CLIMAX		ベスト4

文化部

■写真部

コンテスト

◎第37回福島県高等学校総合文化祭写真展

「思春期」

古川 綾奈(1T)	出展
◎第37回福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演展示発表部門 「満ち溢れる若き力」	
山野邊裕樹(2C)	展示
◎第25回東北地区高等専門学校文化部発表会 写真部門 「不気味なシセン」	
石井 楓生(4E)	特選
「氷の表情」	
今井 志信(5C)	入選
撮影会 ・冬の会津・裏磐梯撮影会（12月）	
福島高専・いわき総合高校写真部技術講習会(11月)開催 地域活動	
・いわき街なかコンサート撮影(10月)	実施
・タウンマガジンいわき撮影協力 2月号(成人式撮影)	実施

■将棋部

◎第27回全国高等学校文化連盟将棋新人大会福島県大会 男子個人戦	遠藤 雅明(2C)	1回戦敗退
〃	秋山 祐輝(2M)	1回戦敗退
〃	鈴木 練(2M)	1回戦敗退
〃	松本 蒼矢(1E)	2回戦敗退
〃	齋藤 剛瑠(1C)	3回戦敗退

■茶華道部

いわき学校茶道連盟 第45回合同発表会	参加
---------------------	----

■吹奏楽部

・第40回定期演奏会	実施
------------	----

■ロボット技術研究会

アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2018東北地区大会	
--	--

- ・Aチーム「ベスト・ペット」
五十嵐知士・鈴木海渡・鳥羽広葉

準優勝
(全国大会出場)

- ・Bチーム「フリッパーズ」
藤田悠史・須田彩冬・菅野亘
アイデア対決・全国高等専門学校

ベスト4

- ・Aチーム「ベスト・ペット」
五十嵐知士・鈴木海渡・鳥羽広葉

1回戦敗退
特別賞(東京エレクトロン株式会社)

■ソフトウェア研究会

- ◎全国高等専門学校第28回プログラミングコンテスト
課題部門

敢闘賞

- 自由部門

敢闘賞

- 競技部門

予選リーグ4チーム中3位

敗者復活リーグ5チーム中3位

■ESS & EDS研究会

- 第12回東北地区高等専門学校英語スピーチコンテスト
藤田 来夏(3B)

第2位

(全国大会出場)

- 引地良偉夢(2B)

第3位

- 第12回全国高等専門学校英語スピーチコンテスト
藤田 来夏(3B)

出場

■その他

- ◎全国高等専門学校デザインコンペティション2018in 北海道
【構造デザイン部門】

参加

- ・チームA

参加

【空間デザイン部門】

- 「今もなお生き続ける城下町からの蔵」

- ・會田聖生・飯澤将伍・乙山翔太・関根凌太・由利優樹(5K)

予選敗退

「未来に残る伝統郷」

- ・鹿又善憲(2SE)・高木芽依(1SE)・金野実紗(5K)

予選敗退

表彰

●専攻科学業優秀賞

産業技術システム工学専攻

- 生産・情報システム工学コース2年
- エネルギーシステム工学コース2年
- 化学・バイオ工学コース2年
- 社会環境システム工学コース2年
- ビジネスコミュニケーション学専攻
- ビジネスコミュニケーション学コース2年

大内田優香
山崎 貴文
松井 萌
武藤 尚樹
大竹真亜沙

●電子情報通信学会 東北支部優秀学生賞

電気工学科5年

小助川克也

●日本化学会 東北支部長賞

物質工学科5年

金成 百晃

●全国高専土木工学会 近藤賞

建設環境工学科5年

高橋康太郎

●福島高専協力会長賞

機械工学科5年

固山 尚矢

電気工学科5年

清野 雅

物質工学科5年

富岡 真司

建設環境工学科5年

蛭田 貴之

コミュニケーション情報学科5年

佐藤 梨奈

機械工学科5年

飯藤 淳実

電気工学科5年

尾崎 貴英

機械工学科5年

小室 昂生

機械工学科5年

佐川 晶

機械工学科5年

鴨 瞭穂

●同窓会長賞

機械工学科5年

小林 由佳

●特別表彰

- JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2018

最優秀賞(公益財団法人国際協力機構理事長賞)

ビジネスコミュニケーション学科3年 齋藤 真緒

- TOEIC試験900点以上取得者の表彰

ビジネスコミュニケーション学専攻2年 佐藤 文

中塙 敏均

●学会表彰

- ・社団法人日本機械学会 畠山賞

機械工学科5年

藁谷 真輝

- ・電気学会東北支部優秀学生賞

電気工学科5年

中塙 敏均



平成30年度磐陽祭開催報告

学生主事補 尾形 慎

今年度の福島工業高等専門学校高専祭「磐陽祭」は、11月2日に前夜祭が、3日に一般公開の本祭が開催されました。本年度は、磐陽祭のテーマを「ラスト平成～華の世代を楽しみな祭～」と定め、近隣地域の幅広い年代の方々に平成最後の節目となる磐陽祭を楽しんで頂くことを目標に取り組んできました。学生会磐陽祭実行委員会の学生を中心としたメンバーが案を出し合って企画したクイズラリーや仮装コンテスト、お化け屋敷などには、一般来場者の皆様に少しでも楽しんで頂きたいという気持ちが込められていたものと思っています。また、来場者の方々にオープンキャンパスとして各学科、専攻科およびセンターなどを公開することで、本校の学業や課外活動、研究活動などに対する日々の取り組みを広く知って頂く良い機会にもなりました。

天候に恵まれたこともあり、多くの来場者にお越し頂き無事に磐陽祭を開催できましたのは、保護者の皆様、近隣地域の方々、関係機関の皆様のご理解、ご協力によるものだと思っております。本文にてお礼申し上げます。

磐陽祭を終えて

磐陽祭実行委員長 コミュニケーション情報学科4年 永藤 春佳

今年度の「磐陽祭」は、11月3日（土）に開催されました。今年度の磐陽祭のテーマは「ラスト平成～華の世代を楽しみな祭～」と定め、平成最後の磐陽祭を華やかなものにするために、実行委員全体で懸命に取り組みました。そこで今年度は吹奏楽部の演奏によるオープニングで始まり、学内のさまざまな場所に「SNS映え」のする撮影スポットの設置や学生による仮装コンテストを開催しました。また、来場者参加型のイベントである「クイズラリー」やお化け屋敷「通りゃんせ」も大変人気で、来場された皆様にも楽しんでいただけたのではないかと思います。

今回私は、実行委員長として仲間と一緒にひとつのものを創り上げることの楽しさと達成感を感じることができました。平成最後を飾るのにふさわしい磐陽祭になったのではないかと思います。最後になりますが、今年度も無事に磐陽祭を開催できたのは、たくさんの方々のご協力によるものです。ご来場くださった皆様、そして協力してくださった皆様に心から感謝申し上げます。

TOPICS

千葉工業大学と連携協定を締結

本校では、9月21日、千葉工業大学と包括的な連携に関する協定を締結しました。この協定は、両機関が教育・研究活動全般に係る連携を推進し、相互の教育・研究の進展と地域社会の発展に資することを目的としたものです。今後は、学生の受入れ、研究者の交流、共同研究や施設の相互利用での協力が予定されています。東日本大震災からの復興を目指し、福島イノベーション・コースト構想、福島第一原子力発電所の着実な廃炉、地域の環境回復といった取組みに有為な人材の輩出を目指す福島高専と、ロボット、惑星探査、人工知能等の工学系の幅広い分野に実績を有する千葉工業大学との連携によって、人材育成及び教育・研究面での更なる効果創出が期待されます。



協定締結式後の記念撮影

(福島高専山下校長(左から2人目)と、千葉工業大学小宮学長(同3人目))

福島高専、福島県浜通り8機関と包括協定



本校は「福島浜通り復興創成キャンパスコンソーシアム」の構築と包括的連携を図ることを目的として、福島県浜通り地区にある高等教育機関（東日本国際大学（取りまとめ校）・いわき短期大学・いわき明星大学・福島高専）・地方自治体（いわき市・広野町・楢葉町）及び産業界（いわき商工会議所）の8機関による協定を締結しました。

この協定は、①「福島・国際研究産業都市構想」、いわゆる「イノベーション・コースト構想」の推進②高齢化の進展や原子力発電所の事故等に伴い、地域に生活する人々の健康維持・増進③若い世代を地方に定着させ地方創生を一層強力に推進することを目的として、福島浜通り地域

に立地する高等教育機関、主な地方自治体、産業界等から構成されるプラットフォームを設立し、機動的かつ効率的に連携協力が可能な体制を構築するものです。

協定式では各機関の代表が今後の抱負を述べ、山下校長からは再生可能エネルギー、原子力安全及び防災・減災の三分野で地域に活躍できる人材を育成することで福島浜通りの産業の回復とロボットやエネルギー関連産業等の新産業の創出に更なる貢献をしたいと述べられました。

今後は今年の8月頃までに中長期計画を策定し、順次事業を開始する予定としています。

第3回廃炉創造ロボコン開催

文部科学省及び廃止措置人材育成高専等連携協議会（会長：福島高専校長）が主催する「第3回廃炉創造ロボコン」が12月14日（金）～15日（土）、日本原子力研究開発機構榎葉遠隔技術開発センターを会場に開催され、全国の国公立高専から14校15チーム、マレーシア工科大学から1チームの計16チームが参加しました。今回から福島第一原子力発電所のペデスタル下部に存在する燃料デブリ取出しを想定した課題に一新され、塩ビパイプの中を移動した後、3.2m下からボールを回収する競技に挑みました。

福島高専チームのロボット「はじめてのおつかい号」は、ゴール地点までは到達できなかったものの、下部からのボールの回収には成功し、アイディア賞である高専機構理事長賞を獲得しました。

廃炉創造ロボコンは、来年度も12月に開催を予定しています。



平成30年度 福島浜通りグローカル人材育成事業・事後報告会を開催

平成29年度前期（第6期）及び30年前期（第8期）～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～「地域人材コース」に採択された「トビタテ！福島浜通り再生ストーリーの主役たち」の留学生5名（慶應義塾大学1名・いわき明星大学1名・東日本国際大学2名・福島高専1名）が参加して2月24日（日）いわき市生涯学習プラザで事後報告会が開催されました。

報告会は福島浜通りグローカル人材育成事業推進協議会員及び同運営委員、留学生のインターンシップにご協力いただいた企業関係者、ご寄附をいただいた企業の皆様、日本学生支援機構トビタテ！留学JAPAN担当者の計35名ほど参加のもとでの開催となりました。

初めに、同協議会長の山下福島高専校長から挨拶があり、次に留学生から報告を行いました。各々の留学生からは、留学して楽しかったこと、つらかったことなどを織り交ぜながら留学の概要や成果、将来の展望等について発表があり、その後参加者から質問をいいただきました。

最後に日本学生支援機構トビタテ！留学JAPAN グローバル人材育成企画部長大西様及びいわき商工会議所副会頭正木様から講評をいただき和やかなうちに終了しました。



原子力規制人材育成事業フォーラムを開催

事業代表者 副校長（専攻科・広報担当） 原田 正光



平成28年度から原子力規制庁の補助金により進めている、原子力規制人材育成に係る今年度のフォーラムを1月10日に企業・自治体等関係者、本校の学生及び教職員等約50名の参加のもと、本校大会議室において開催しました。

フォーラムでは、初めにJAEA福島環境安全センターの武石稔氏が「トリチウムの性質と環境中挙動」と題して基調講演を行い、本事業代表者の原田正光副校長が事業概要報告を行いました。

引き続き事例発表として、新規開設授業の「環境全学・演習」の受講報告、複合型インターンシップの実施報告、英国セラフィールド及びJAEA 幌延深地層研究センターの施設見学報告並びに学生研究報告が関係学生から行われ、活発な意見交換が交わされました。

原子力規制庁からのこの事業の補助期間は、5年間ですが、本校では、その後も継続して原子力規制に関する人材育成を進めていくこととしています。

事例発表者 4M 瀧田大地、4C 福原至音、4C 馬自由季、5M 武田達智、2SE 市川 希

退職者ご挨拶



ビジネスコミュニケーション学科 ニエム・フー・ビン

私は2006年1月にベトナムのThuongmai大学の講師になりました。

東京での大学院生活の後、2016年4月に助教として福島高専にきました。新しい環境で、言葉の不自由もあり、最初の1年半は大変でした。しかし、フレンドリーな環境で、親切な教職員の皆さんと真面目な学生のおかげで成長できたと思います。

この3年間の間に、アクティブラーニングでの授業ができるようになり、心理学やマーケティングの理論に基づいて研究を行って、論文を書きました。皆さんのおかげで素晴らしい3年間でした。

この4月から兵庫県立大学に赴任することになりました。福島高専で得た知識や経験を糧にして、神戸で頑張ります。

今後ともよろしくお願いします。



一般教科 Nicholas Andrew Ivins

After 2 years and four months teaching at Fukushima Kosen, it is with great sorrow that the time has come to leave. My time here has been one of the most inspiring and satisfying periods of my life. My thanks go to all the teachers and staff here. I hope you will carry on doing a great job.

But most of all, my greatest thanks go to every one of the wonderful students I had the honour of teaching here. To begin with, many of them were quite shy to speak English but I have seen a great improvement in the way they are trying to use English as an active means for communication rather than just a study stool. So, if only for that aspect alone, I hope I have done a good job. It is strange to think that the 2nd years I first taught will be graduating next year!

Finally, thank you to everyone here for your kindness and support and farewell (but hopefully not Goodbye!).

Thank you very much

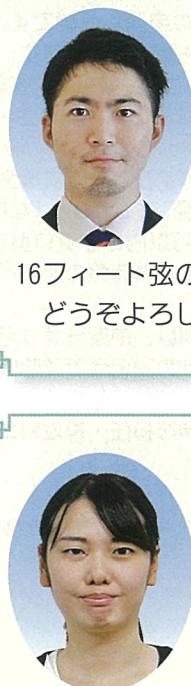
退職者紹介

● 学生課 学生課長 遠藤 宗明

平成31年3月31日をもって定年退職された方で、永年にわたり本校の教育、研究をサポートして頂きまして、御礼申し上げます。



新任教職員紹介



都市システム工学科 橋 一光

昨年10月より都市システム工学科へ着任しました、橋です。構造力学の授業と実験、耐震設計法などを担当いたします。

9月までは東北大学の博士課程後期に在籍し、離散体と流体の数値解析を専門に扱っていました。現在も継続して学位論文に取り組んでいます。

趣味はルネサンス・バロック時代の西洋音楽です。いわきアリオスが所蔵する16フィート弦のチェンバロを一度聴いたことがあります、機会があれば自分で触ってみたいです。
どうぞよろしくお願ひいたします。



総務課総務企画係 松本 千穂

昨年9月に採用となりました、総務課の松本千穂と申します。

昨年の3月に茨城大学を卒業し、地元であるいわき市に戻ってきました。大学4年間は地元を離れていたので、福島高専の職員としていわきで働くことができ嬉しく思います。

学生の皆さんと直接顔を合わせる機会は少ないですが、皆さんや先生方を少しでもサポートできれば幸いです。

社会人としてまだまだ未熟でご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、様々なことを吸収し頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



総務課（情報処理教育センター技術職員）田名部 寛記

昨年11月1日付で総務課（情報処理教育センター技術職員）に着任しました田名部寛記と申します。着任前は青森市で鉄道電気設備の保守を行っており、主に新幹線の信号通信機器の保守を担当しておりました。

青森県八戸市出身で、雪国で育ったため、雪が無く過ごしやすいいわきの気候に感動しています。

経験不足でご迷惑をかけることが多いと思いますが、誠心誠意励んでいきますので、よろしくお願ひいたします。



モノづくり教育研究支援センター 大塩 智史

昨年11月1日にモノづくり教育支援センターに着任しました大塩智史と申します。

技術職員として採用され、おもに化学・バイオ工学科の実験や実習から担当することになると思います。

私は、学生の皆さんと良いコミュニケーションを取りながら、実験や実習の支援を行うことができたらと考えております。また、作業中での安全意識の向上を第一にどのようにしたら学生の皆さんに理解を深めてもらうことができるかなどを教職員や技術職員の方々と日々相談し、考えながら業務に取り組んでいきたいと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

高等学校等就学支援金

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

国立高等専門学校（第1学年～第3学年）も就学支援金制度の対象となっており、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されますが、平成26年4月の入学者からは所得制限を設けた新制度が実施されております。

支給期間は原則として通算36月となっております。また、保護者の所得に応じて一定額が加算される加算支給制度もあります。

なお、就学支援金は保護者全員（学生の親権者）の「市町村民税所得割+都道府県民税所得割の合計額」を基準に支給されるため、保護者等の失職、倒産等家計急変したときにすぐ反映されない場合があります。その場合、就学支援金制度とは別に、「家計急変支援金制度」の対象となる場合がありますので、詳しくは学生課学生支援係にお問い合わせください。

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請（前期の授業料の免除申請の際に併せて、後期の申請も可能です。）に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は免除選考基準により、家計・学力・人物について学生委員会で審議します。

経済的理由による授業料免除の対象となるのは、4年生・5年生・専攻科生となります。

3年生以下につきましては、左記の高等学校等就学支援金制度が適用されるため、経済的理由による授業料免除の対象とはなりません。

（ただし、授業料の各期の納付期限前6月以内の学資負担者死亡等、特別な事情が発生した場合は、例外的に授業料免除の対象となることがあります。）

経済的理由による授業料免除の申請時期は、前期分は3月下旬、後期分は9月中旬となっておりますが、事前の説明会で免除申請用紙を配付し、併せて申込み締切り日についてお知らせします。なお、説明会の日程については、掲示・放送および学級担任・専攻科コース長からお知らせします。

奨学制度・授業料免除制度・高等学校等就学支援金についてのお問い合わせは 学生課学生支援係まで TEL 0246-46-0736

行事予定(前期)

4月

- 4日（木） 入学式（本科・専攻科・編入学生）
新入寮生歓迎夕食会
5日（金） 始業式
新入生オリエンテーション
交通安全教室（1年）
専攻科ガイダンス（専1）
8日（月） 前期授業開始
10日（水） 全校・校外清掃日
11日（木） 特研オリエンテーション（専1）
12日（金） 工学実験ガイダンス（専1）
17日（水） 基礎学力標準試験（化学）
（工学系4学科の2年生対象）
18日（木） 定期健康診断（臨時休講）
20日（土） 公開授業（木曜授業）
27日（土） 開校記念日

5月

- 8日（水）～10日（金） 専攻科推薦入試願書受付
15日（水） 後援会総会・学級懇談会
・寮生保護者個別面談会
18日（土） 専攻科推薦入試
28日（火）～30日（木） 前期中間試験期間

6月

- 4日（火）～5日（水） 前期中間試験期間
5日（水）～7日（金） 専攻科学力入試願書受付
15日（土） 専攻科学力入試

7月

- 3日（水） 交通安全教室（3年）
5日（金）～7日（日） 東北地区高専体育大会
10日（水） 消費生活安全教室（5年）
11日（木） ネット安心講座（1年）特活
17日（水） インターンシップ事前指導会（4年）
31日（水）～8月2日（金） 編入学（学力）願書受付

8月

- 1日（木）～7日（水） 前期期末試験
7日（水） 集会、教室整備
8日（木） 補講日
8日（木）～9月17日（火） 夏季休業
9日（金） 閉寮
10日（土）～15日（木） 学校閉鎖
18日（日） 開寮

9月

- 3日（火） 編入学試験（学力）
18日（水） 集会、専攻科集会
秋季校内体育大会（午後）
19日（木） 秋季校内体育大会
27日（金） 体験入学準備日（休校日）
28日（土）～29日（日） 体験入学

編集後記

平成最後の学校だよりの編集となりました。年度末の多忙な時期に、原稿を寄せていただいた皆様、ありがとうございました。本校の取り組みも震災からの復興、ふくしまイノベーションコスト、グローバルなどの分野で多くの成果が得ながら、次の時代に移ろうとしています。さまざまな取り組みにおいては学外の多くの皆様にたいへんお世話になりましたことも紙面を借りて御礼申し上げます。新年度からは第4期中期計画がスタートしますが、本校も新しい時代を支える人材の育成に応えていくことになります。